

6 平成30年の自殺の状況

(1) 平成30年における自殺の概要

自殺統計によると（第1-14表）、平成30年の自殺者数（第1-14-1表）は2万840人で、前年に比べ481人（2.3%）減少した。性別では、男性が1万4,290人で全体の68.6%を占めている。

年齢別の状況についてみると（第1-14-2表）、「50歳代」が3,575人で全体の17.2%を占め、次いで、「40歳代」（3,498人、16.8%）、「60歳代」（3,079人、14.8%）、「70歳代」（2,998人、14.4%）の順となっている。前年と比べて、10歳代、70歳代及び80歳以上で増加し、それ以外の年齢階級では減少している。

職業別の状況についてみると（第1-14-3表）、「無職者」が1万1,776人で全体の56.5%を占めて最も多く、次いで「被雇用者・勤め

人」（6,447人、30.9%）、「自営業・家族従業者」（1,483人、7.1%）、「学生・生徒等」（812人、3.9%）の順となっており、この順位は前年と同じである。前年と比べて、「無職者」及び「学生・生徒等」で自殺者数が減少している。

原因・動機別の状況についてみると（第1-14-4表）、原因・動機特定者は1万5,551人（74.6%）であり、そのうち原因・動機が「健康問題」にあるものが1万423人で最も多く、次いで「経済・生活問題」（3,432人）、「家庭問題」（3,147人）、「勤務問題」（2,018人）の順となっており、この順位は前年と同じである。また、前年と比べて、「家庭問題」、「健康問題」、「経済・生活問題」及び「男女問題」で自殺者数が減少している。

第1-14表 自殺者の年次比較

第1-14-1表 総数

(単位：人)

	総数			成人			少年			不詳		
		男	女		男	女		男	女		男	女
平成30年 (構成比)	20,840 (100.0%)	14,290 (68.6%)	6,550 (31.4%)	20,189 (100.0%)	13,876 (68.7%)	6,313 (31.3%)	599 (100.0%)	366 (61.1%)	233 (38.9%)	52 (100.0%)	48 (92.3%)	4 (7.7%)
平成29年 (構成比)	21,321 (100.0%)	14,826 (69.5%)	6,495 (30.5%)	20,698 (100.0%)	14,381 (69.5%)	6,317 (30.5%)	567 (100.0%)	396 (69.8%)	171 (30.2%)	56 (100.0%)	49 (87.5%)	7 (12.5%)
増減数 (構成比)	-481 -	-536 (-0.9)	+55 (0.9)	-509 -	-505 (-0.8)	-4 (0.8)	+32 -	-30 (-8.7)	+62 (8.7)	-4 -	-1 (4.8)	-3 (-4.8)
増減率(%)	-2.3	-3.6	0.8	-2.5	-3.5	-0.1	5.6	-7.6	36.3	-7.1	-2.0	-42.9

第1-14-2表 年齢階級別自殺者数

(単位：人)

	総数	少年		成人							不詳
		～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	
平成30年 (構成比)	20,840 (100.0%)	0 (0%)	599 (2.9%)	2,152 (10.3%)	2,597 (12.5%)	3,498 (16.8%)	3,575 (17.2%)	3,079 (14.8%)	2,998 (14.4%)	2,290 (11%)	52 (0.2%)
平成29年 (構成比)	21,321 (100.0%)	0 (0%)	567 (2.7%)	2,213 (10.4%)	2,703 (12.7%)	3,668 (17.2%)	3,593 (16.9%)	3,339 (15.7%)	2,926 (13.7%)	2,256 (10.6%)	56 (0.3%)
増減数 (構成比)	-481 -	0 (0.0)	+32 (0.2)	-61 (-0.1)	-106 (-0.2)	-170 (-0.4)	-18 (0.3)	-260 (-0.9)	+72 (0.7)	+34 (0.4)	-4 (-0.1)
増減率(%)	-2.3	-	5.6	-2.8	-3.9	-4.6	-0.5	-7.8	2.5	1.5	-7.1

第1-14-3表 職業別自殺者数

(単位：人)

	総数	自営業・ 家族従業者	被雇用者・ 勤め人	無職		不詳
				学生・生徒等	無職者	
平成30年 (構成比)	20,840 (100.0%)	1,483 (7.1%)	6,447 (30.9%)	812 (3.9%)	11,776 (56.5%)	322 (1.5%)
平成29年 (構成比)	21,321 (100.0%)	1,445 (6.8%)	6,432 (30.2%)	817 (3.8%)	12,280 (57.6%)	347 (1.6%)
増減数 (構成比)	-481 -	+38 (0.3)	+15 (0.7)	-5 (0.1)	-504 (-1.1)	-25 (0.0)
増減率(%)	-2.3	2.6	0.2	-0.6	-4.1	-7.2

表1-14-4表 原因・動機別自殺者数

(単位：人)

	総数	原因・動機 特定者	原因・動機 不特定者
平成30年 (構成比)	20,840 (100.0%)	15,551 (74.6%)	5,289 (25.4%)
平成29年 (構成比)	21,321 (100.0%)	15,930 (74.7%)	5,391 (25.3%)
増減数 (構成比)	-480 -	-379 (-0.1)	-101 (0.1)
増減率(%)	-2.3	-2.4	-1.9

(単位：人)

	原因・動機特定者の原因・動機別						
	家庭問題	健康問題	経済・ 生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他
平成30年	3,147	10,423	3,432	2,018	715	354	1,081
平成29年	3,179	10,778	3,464	1,991	768	329	1,172
増減数	-32	-355	-32	27	-53	25	-91
増減率(%)	-1.0	-3.3	-0.9	1.4	-6.9	7.6	-7.8

注) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(平成29年は15,930人、30年は15,551人)とは一致しない。

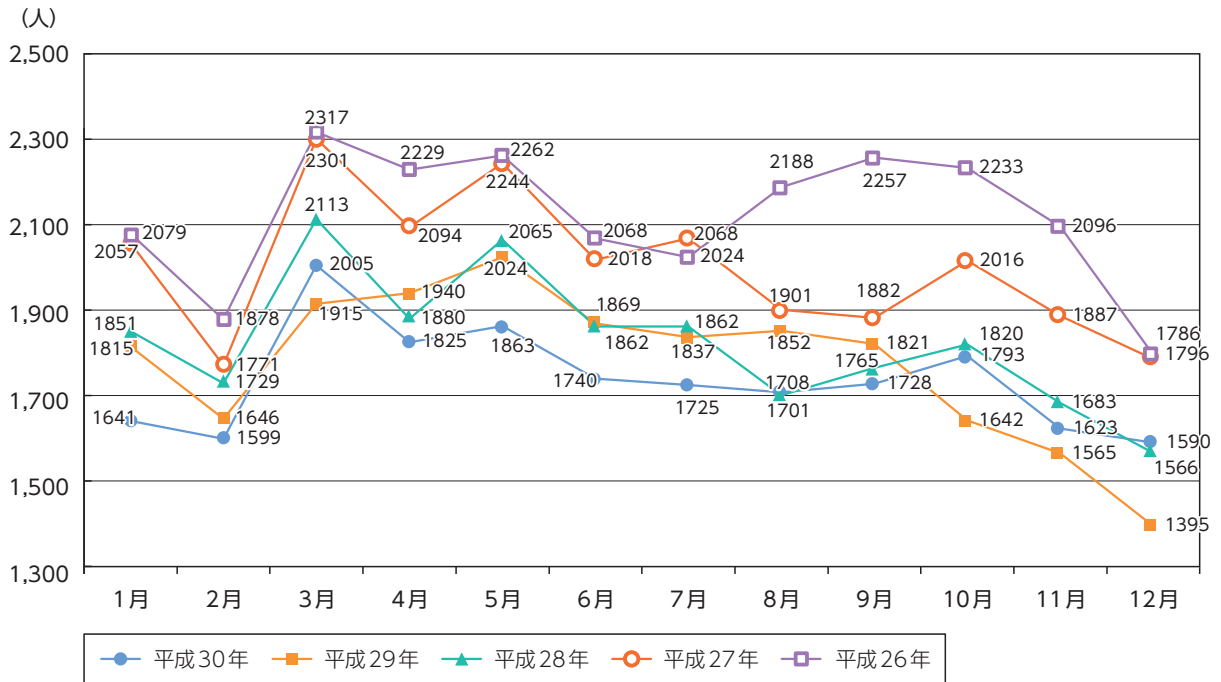
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(2) 月別自殺者数の推移

平成30年における月別自殺者数の推移をみると、自殺統計によれば（第1-15図）、「3月」が最も多く、「12月」が最も少なくなっ

ている。また、3、10～12月で前年の自殺者数を上回り、1、2、4～9月で前年を下回った。

第1-15図 月別自殺者数の推移

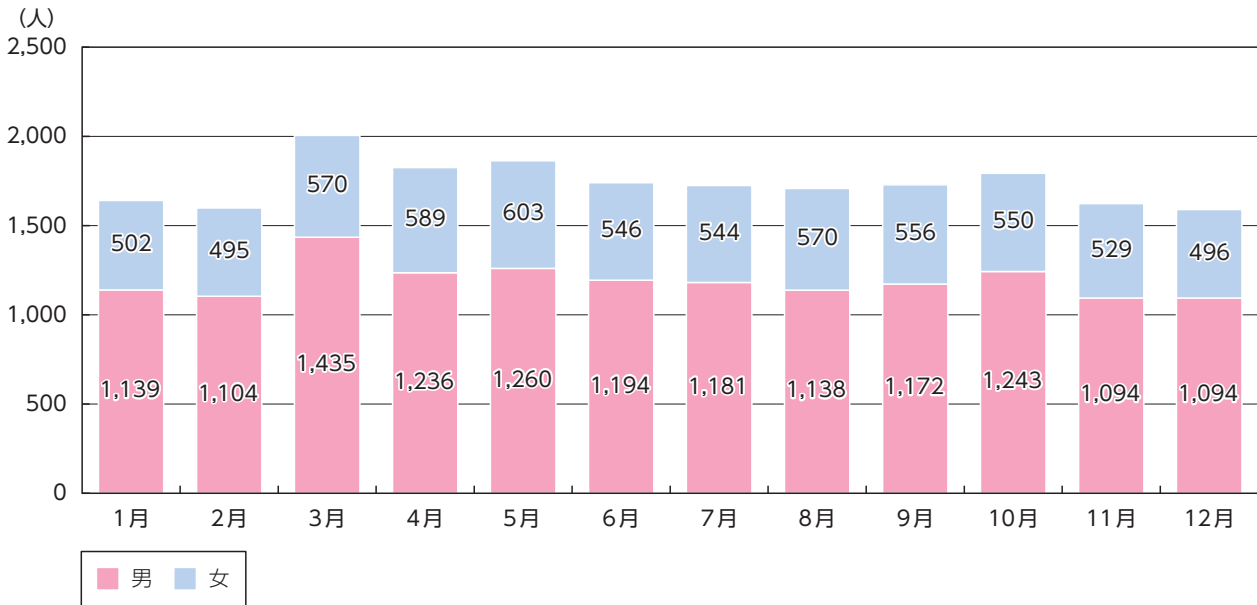


資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

また、男女別の月別の自殺者数の推移をみると、自殺統計によれば（第1-16図）、男性は「3月」、女性は「5月」に自殺者数が最

も多くなっている。また、自殺者数が最も少ない月は、男性で「11月」及び「12月」、女性で「2月」となっている。

第1-16図 平成30年における月別自殺者数（男女）

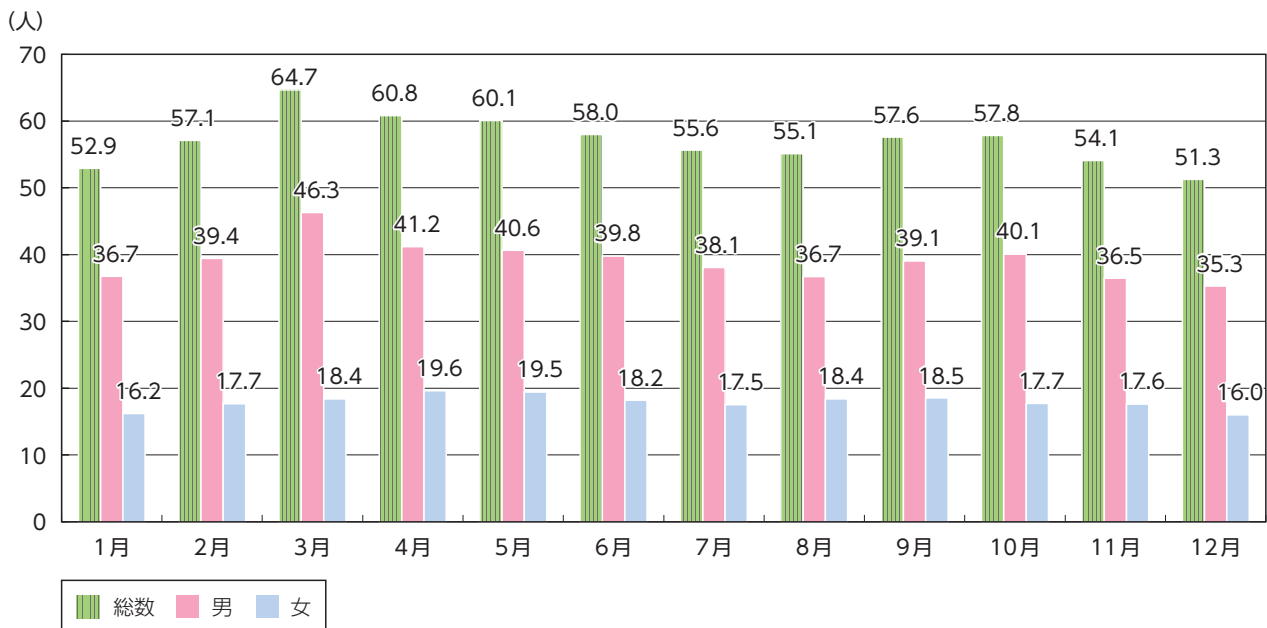


資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

1か月間の日数の影響を排除するため、平成30年における月別の一日平均自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-17図）、「3

月」が最も多くなっており、「12月」が最も少なくなっている。

第1-17図 平成30年における月別の一日平均自殺者数



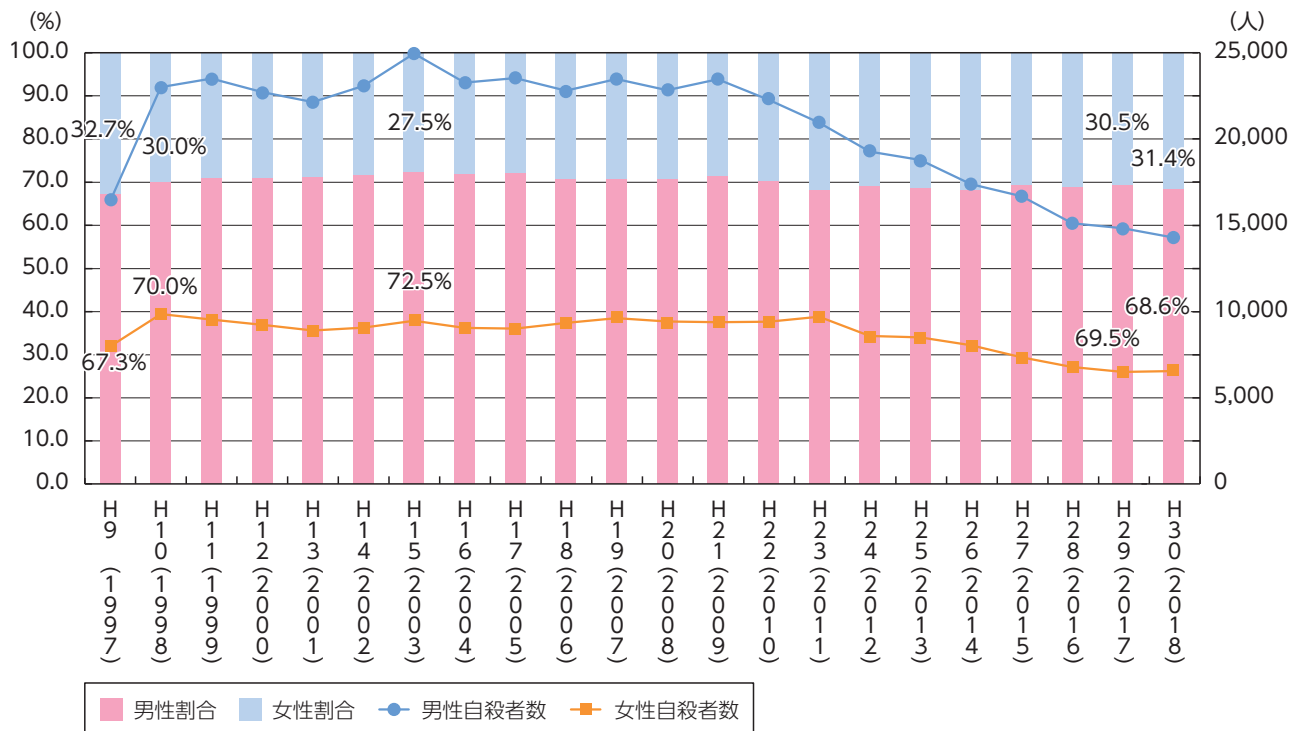
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(3) 男女別の状況

平成30年における男女別の自殺者の状況を見ると、自殺統計によれば（第1-18図）、自殺者全体の男女別構成比は男性が68.6%となっており、男性がほぼ7割を占めている。

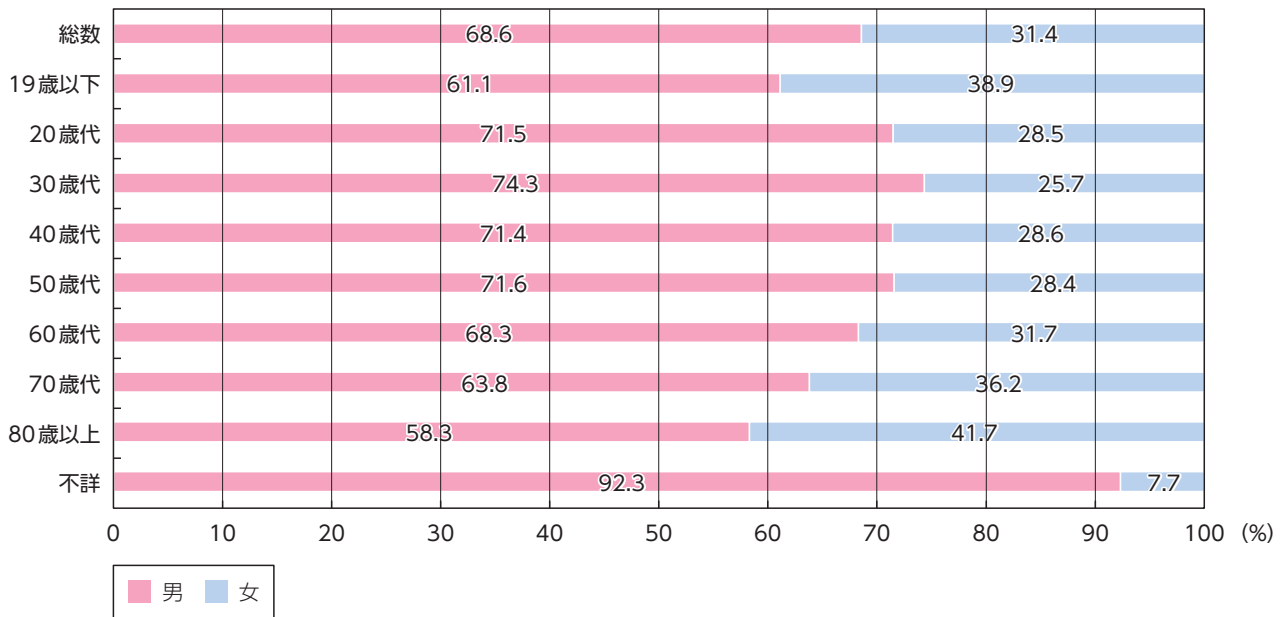
また、年齢階級別にみると（第1-19図）、全ての階級において男性の占める割合が高く、特に20歳代から50歳代までは男性が7割を超えている。

第1-18図 自殺者の男女別構成比の推移



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

第1-19図 平成30年における年齢階級別の自殺者の男女別構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(4) 年齢階級別の状況

平成30年における年齢階級別の自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-20表）、(1)

で述べたとおり50歳代が最も多いが、さらに、男女別で見ると、40歳代から60歳代の男性で全体の約3分の1を占めている。

第1-20表 平成30年における男女別の年齢階級別の自殺者の構成割合

	男		女	
	人数	構成割合	人数	構成割合
10歳代	366	1.8	233	1.1
20歳代	1,538	7.4	614	2.9
30歳代	1,930	9.3	667	3.2
40歳代	2,499	12.0	999	4.8
50歳代	2,558	12.3	1,017	4.9
60歳代	2,103	10.1	976	4.7
70歳代	1,913	9.2	1,085	5.2
80歳以上	1,335	6.4	955	4.6
不詳	48	0.2	4	0.0

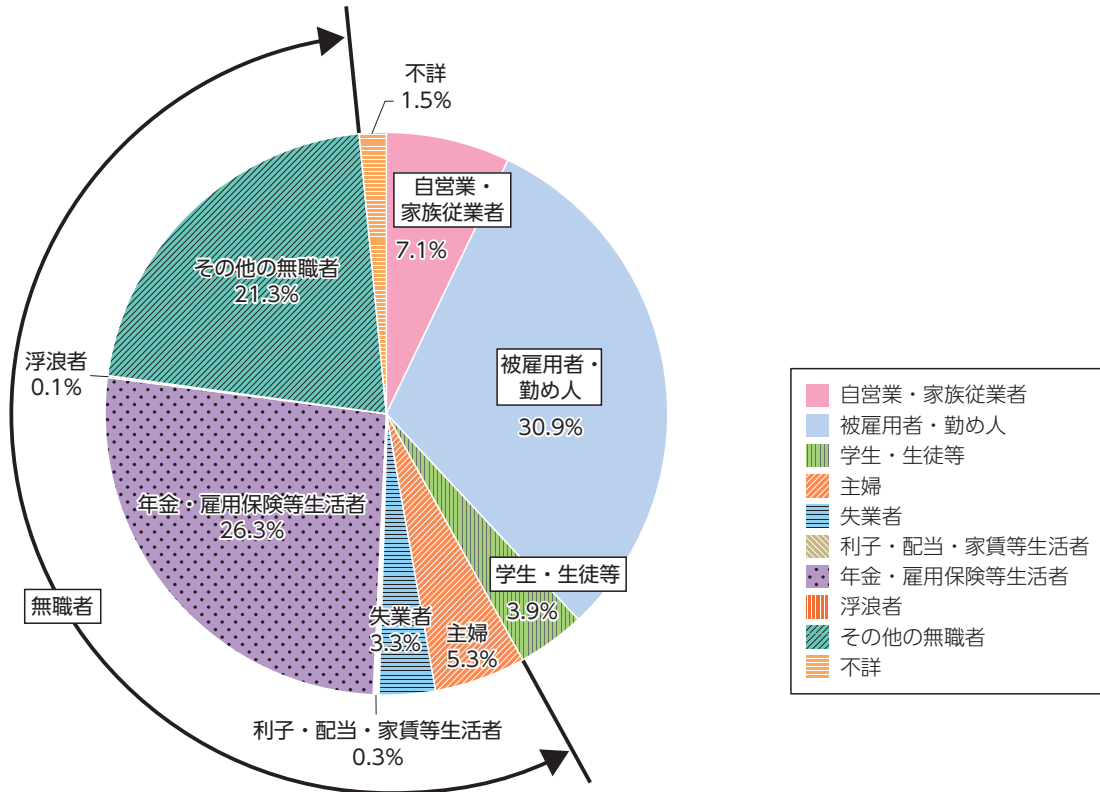
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(5) 職業別の状況

平成30年の職業別の自殺の状況を見ると、自殺統計によれば（第1-21図）、(1)で述べたとおり「無職者」が最も多い。「無職者」の

内訳をみると、「年金・雇用保険等生活者」が最も多く、次いで「その他の無職者」、「主婦」、「失業者」の順となっている。

第1-21図 平成30年における職業別自殺数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

さらに、年齢別、職業別の自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-22表）、総数では「40歳代」及び「50歳代」が3,500人前後となっており、自殺者数が多くなっている。「自営業・家族従業者」では「50歳代」と

「60歳代」、「被雇用者・勤め人」では「30歳代」から「50歳代」、「無職者」では「60歳代」以上が多いなど、職業によって自殺者数の多い年代は異なる。

第1-22表 年齢階級別、職業別自殺者数

年齢階級別、職業別自殺者数

(単位：人)

職業別		年齢階級別									合計	
		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳		
合計	計	599	2,152	2,597	3,498	3,575	3,079	2,998	2,290	52	20,840	
	男	366	1,538	1,930	2,499	2,558	2,103	1,913	1,335	48	14,290	
	女	233	614	667	999	1,017	976	1,085	955	4	6,550	
自営業・家族従業者	計	2	29	123	290	382	360	222	75	0	1,483	
	男	1	24	113	255	341	318	187	64	0	1,303	
	女	1	5	10	35	41	42	35	11	0	180	
被雇用者・勤め人	計	91	1,090	1,386	1,627	1,449	608	170	25	1	6,447	
	男	62	836	1,133	1,323	1,183	512	143	17	0	5,209	
	女	29	254	253	304	266	96	27	8	1	1,238	
無職	学生・生徒等	計	453	345	8	4	0	1	1	0	0	812
		男	273	252	7	3	0	1	1	0	0	537
		女	180	93	1	1	0	0	0	0	0	275
	無職者	計	53	656	1,032	1,513	1,686	2,070	2,577	2,188	1	11,776
		男	30	402	640	861	987	1,237	1,561	1,253	1	6,972
		女	23	254	392	652	699	833	1,016	935	0	4,804
	主婦	計	0	22	113	229	304	242	137	48	0	1,095
		男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	22	113	229	304	242	137	48	0	1,095
	失業者	計	3	79	114	214	209	55	6	1	1	682
		男	1	65	95	185	185	54	5	1	1	592
		女	2	14	19	29	24	1	1	0	0	90
	年金・雇用保険等生活者	計	3	33	98	188	218	1,115	2,013	1,816	0	5,484
		男	1	15	53	110	134	708	1,277	1,056	0	3,354
		女	2	18	45	78	84	407	736	760	0	2,130
	その他	計	47	522	707	882	955	658	421	323	0	4,515
		男	28	322	492	566	668	475	279	196	0	3,026
		女	19	200	215	316	287	183	142	127	0	1,489
不詳	計	0	32	48	64	58	40	28	2	50	322	
	男	0	24	37	57	47	35	21	1	47	269	
	女	0	8	11	7	11	5	7	1	3	53	

注) 無職者のうち、「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「浮浪者」及び「その他の無職者」を足し合わせたもの。

(6) 原因・動機別の状況

平成30年における年齢別、原因・動機別の自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-23表）、「家庭問題」は男女ともに「40歳代」が多い。「健康問題」については、男女ともに「70歳代」が多い。「経済・生活問題」に

ついては、男性の方が女性よりも著しく多く、中でも「40歳代」と「50歳代」が多い。「勤務問題」については、「20歳代」から「50歳代」が多い。「男女問題」は「20歳代」から「40歳代」が多い。

第1-23表 年齢階級別、原因・動機別自殺者数

年齢階級別、原因・動機別自殺者数

(単位：人)

原因・動機別		年齢階級別									合計
		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳	
合計	計	568	2,274	2,733	3,746	3,835	3,078	2,795	2,136	5	21,170
	男	320	1,542	2,001	2,652	2,700	2,057	1,740	1,234	3	14,249
	女	248	732	732	1,094	1,135	1,021	1,055	902	2	6,921
家庭問題	計	116	253	410	615	522	432	418	379	2	3,147
	男	66	160	274	384	307	253	246	225	1	1,916
	女	50	93	136	231	215	179	172	154	1	1,231
健康問題	計	119	712	1,073	1,580	1,755	1,751	1,927	1,504	2	10,423
	男	48	381	658	939	1,036	1,033	1,145	849	1	6,090
	女	71	331	415	641	719	718	782	655	1	4,333
経済・生活問題	計	16	352	479	737	900	617	264	67	0	3,432
	男	12	299	440	648	806	540	211	42	0	2,998
	女	4	53	39	89	94	77	53	25	0	434
勤務問題	計	32	414	425	522	456	134	29	6	0	2,018
	男	28	334	374	473	400	122	28	6	0	1,765
	女	4	80	51	49	56	12	1	0	0	253
男女問題	計	52	228	196	140	68	15	9	7	0	715
	男	23	127	143	87	47	12	9	6	0	454
	女	29	101	53	53	21	3	0	1	0	261
学校問題	計	188	163	3	0	0	0	0	0	0	354
	男	119	122	3	0	0	0	0	0	0	244
	女	69	41	0	0	0	0	0	0	0	110
その他	計	45	152	147	152	134	129	148	173	1	1,081
	男	24	119	109	121	104	97	101	106	1	782
	女	21	33	38	31	30	32	47	67	0	299

注) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(15,551人)とは一致しない。

職業別、原因・動機別の状況をみると、自殺統計によれば（第1-24表）、「自営業・家族従業者」は「経済・生活問題」と「健康問題」が多く、「被雇用者・勤め人」は「健康

問題」と「勤務問題」が多い。「学生・生徒等」は「学校問題」と「健康問題」が多く、「無職者」は「健康問題」が多い。

第1-24表 職業別、原因・動機別自殺者数

職業別、原因・動機別自殺者数

(単位：人)

原因・動機別	職業別	自営業・ 家族従業 者	被雇用者・ 勤め人	無職						不詳
				学生・生 徒等	無職者	主婦	失業者	年金・雇 用保険等 生活者	その他	
合計	計	1,622	6,868	771	11,759	1,163	872	5,373	4,351	150
	男	1,423	5,449	482	6,778	0	759	3,201	2,818	117
	女	199	1,419	289	4,981	1,163	113	2,172	1,533	33
家庭問題	計	228	1,033	125	1,742	275	99	795	573	19
	男	194	753	76	881	0	83	453	345	12
	女	34	280	49	861	275	16	342	228	7
健康問題	計	523	2,215	171	7,460	786	280	3,871	2,523	54
	男	419	1,604	88	3,944	0	221	2,244	1,479	35
	女	104	611	83	3,516	786	59	1,627	1,044	19
経済・生活問題	計	614	1,185	38	1,545	61	376	326	782	50
	男	577	1,061	30	1,283	0	352	257	674	47
	女	37	124	8	262	61	24	69	108	3
勤務問題	計	149	1,657	6	201	6	55	25	115	5
	男	140	1,453	5	162	0	49	20	93	5
	女	9	204	1	39	6	6	5	22	0
男女問題	計	41	441	52	176	10	24	27	115	5
	男	32	303	24	91	0	20	13	58	4
	女	9	138	28	85	10	4	14	57	1
学校問題	計	0	5	329	20	0	1	0	19	0
	男	0	2	227	15	0	1	0	14	0
	女	0	3	102	5	0	0	0	5	0
その他	計	67	332	50	615	25	37	329	224	17
	男	61	273	32	402	0	33	214	155	14
	女	6	59	18	213	25	4	115	69	3

注) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(15,551人)とは一致しない。

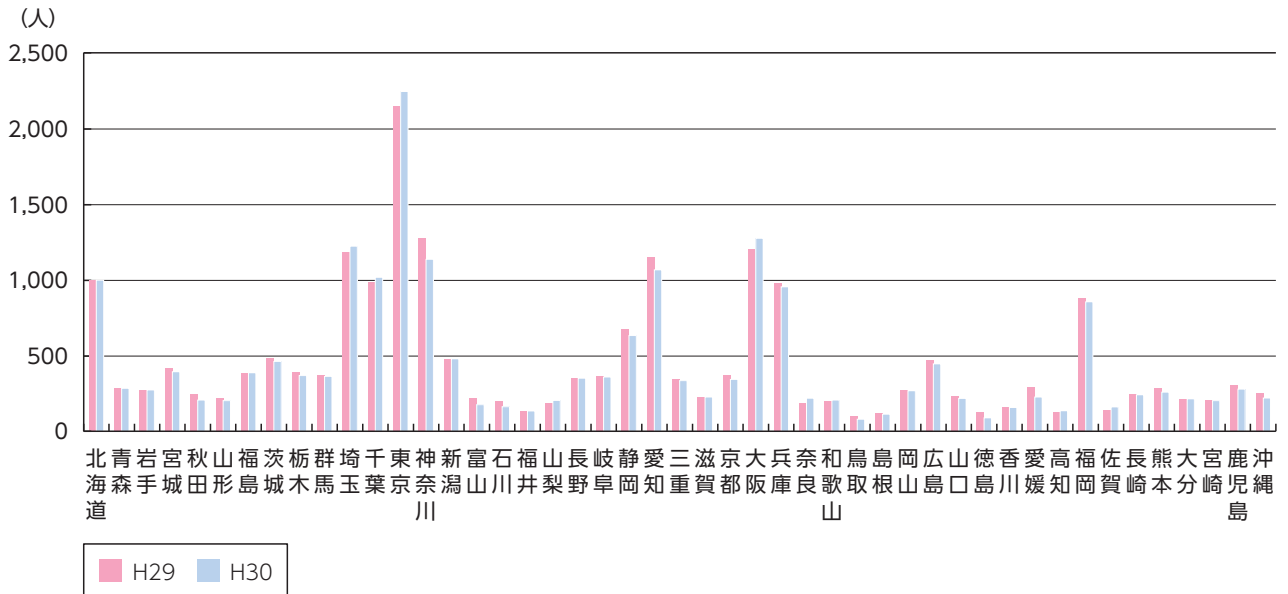
注) 無職者のうち、「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「浮浪者」及び「その他の無職者」を足し合わせたもの。

(7) 都道府県別の状況

平成30年における都道府県別の自殺の状況をみると、自殺統計によれば、自殺者数につ

いては（第1-25図）前年に比べ、33道府県で減少、13都府県で増加、1県で横ばいとなっている²。

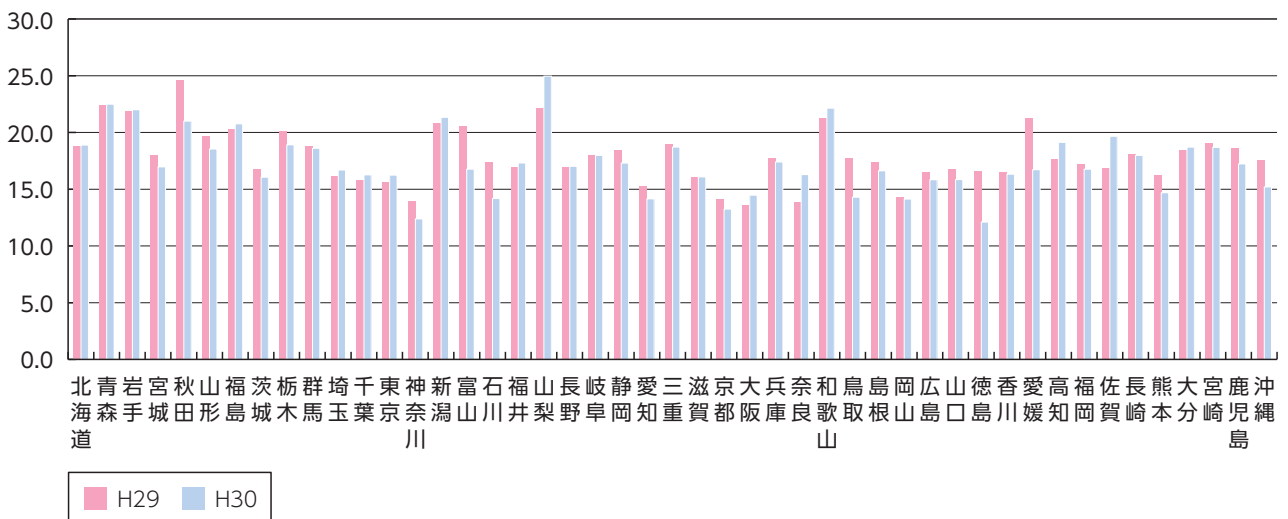
第1-25図 都道府県別の自殺者数



また、自殺死亡率についてみると（第1-26図）、前年に比べ、29府県で低下、18都道

府県で上昇となっている。

第1-26図 都道府県別の自殺死亡率



2 自殺の発見地の都道府県に計上しており、自殺者の住居地とは異なる。

(8) 手段別の状況

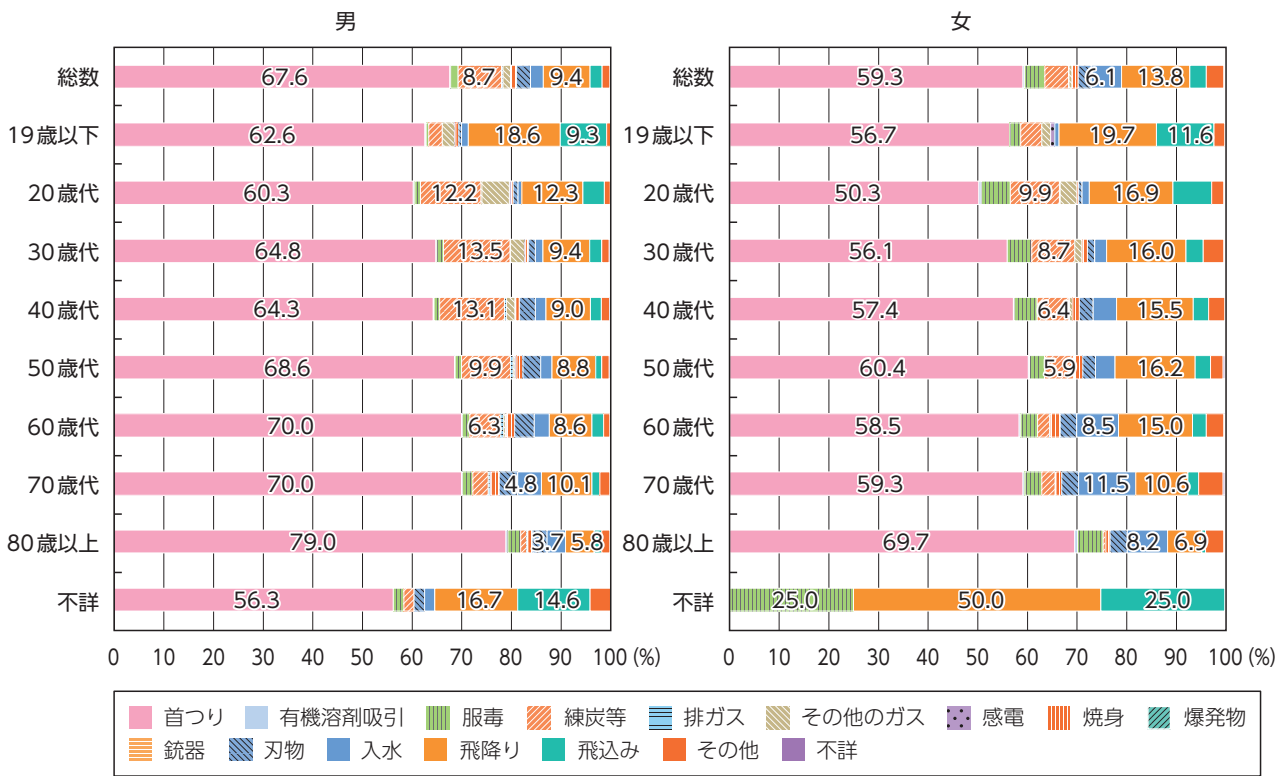
平成30年における手段別の自殺の状況について、自殺統計によれば（第1-27図）、男性では「首つり」（67.6%）が最も多く、次いで「飛降り」（9.4%）、「練炭等」（8.7%）となっており、女性では「首つり」（59.3%）が最も多く、次いで「飛降り」（13.8%）、「入水」（6.1%）となっている。

また、男女別・年齢階級別で見ると、男女とも全ての階級で「首つり」が最も多い。

男性については、「首つり」に次いで、19歳以下では「飛降り」、「飛込み」の順で多く、30歳代から50歳代では「練炭等」、「飛降り」の順で多くなっており、20歳代及び60歳代では「飛降り」、「練炭等」、70歳代及び80歳以上では「飛降り」、「入水」の順で多くなっている。

女性については、「首つり」に次いで、60歳代以下では「飛降り」が多く、70歳代以上では「入水」が多くなっている。

第1-27図 平成30年における男女別・年齢階級別（10歳階級）・自殺の手段別の自殺者数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

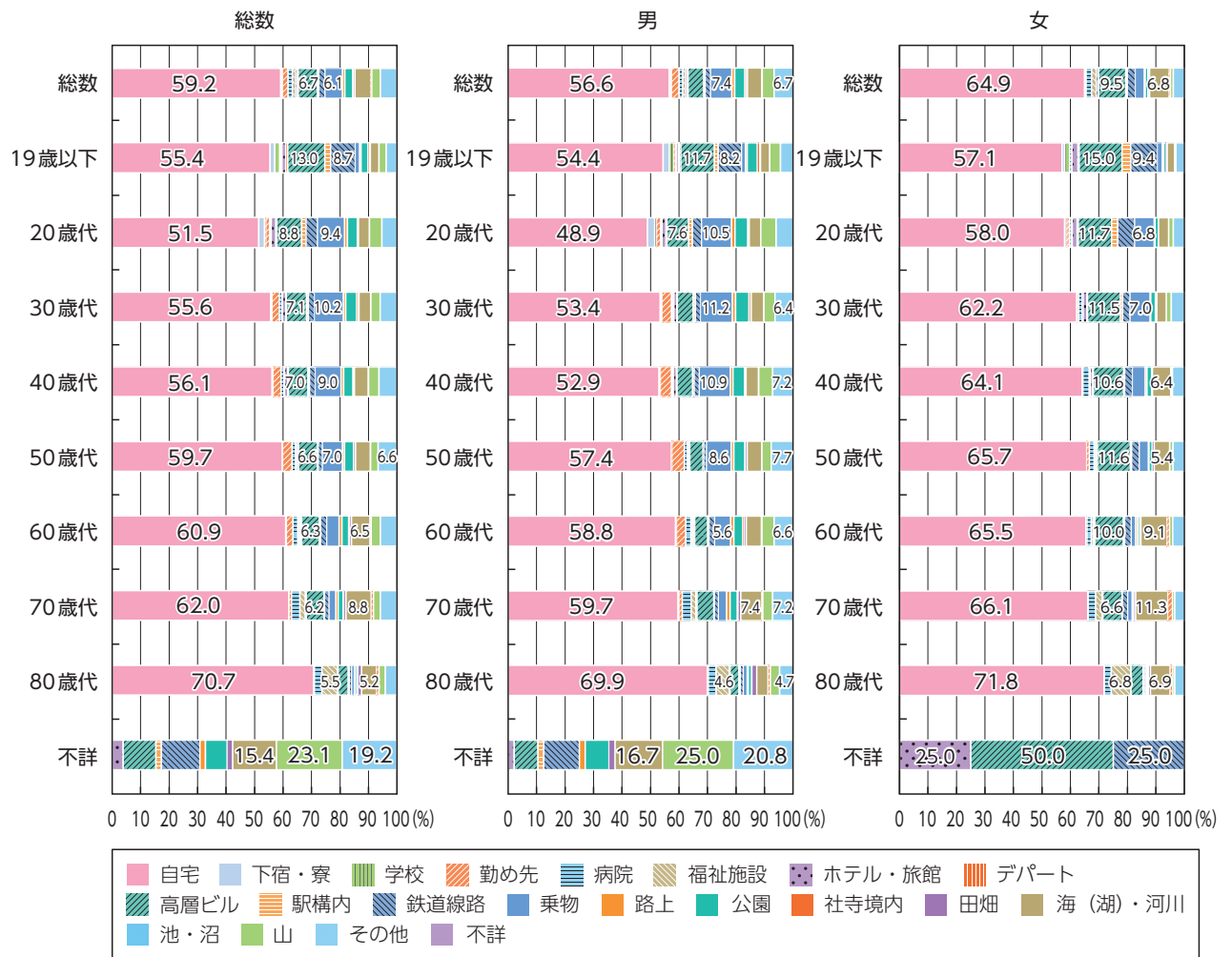
(9) 場所別の状況

平成30年における場所別の自殺の状況について、自殺統計によれば（第1-28図）、「自宅」（59.2%）が最も多く、次いで「高層ビル」（6.7%）、「乗物」（6.1%）となっている。

男女別にみると、男性については、「自宅」（56.6%）、「乗物」（7.4%）などとなっている。女性については、「自宅」（64.9%）、「高層ビル」（9.5%）、「海（湖）・河川」（6.8%）などとなっている。

年齢階級別にみると、男女とも全ての階級において「自宅」が最も多いが、男性については、「自宅」に次いで、20歳代から60歳代までは「乗物」、19歳以下では「高層ビル」、70歳代では「海（湖）・河川」、80歳代では福祉施設が多くなっている。女性についても、「自宅」に次いで、19歳以下から60歳代までは「高層ビル」、70歳代及び80歳以上では「海（湖）・河川」が多くなっている。

第1-28図 平成30年における男女別・年齢階級別（10歳階級）・自殺の場所別の自殺者数の構成割合



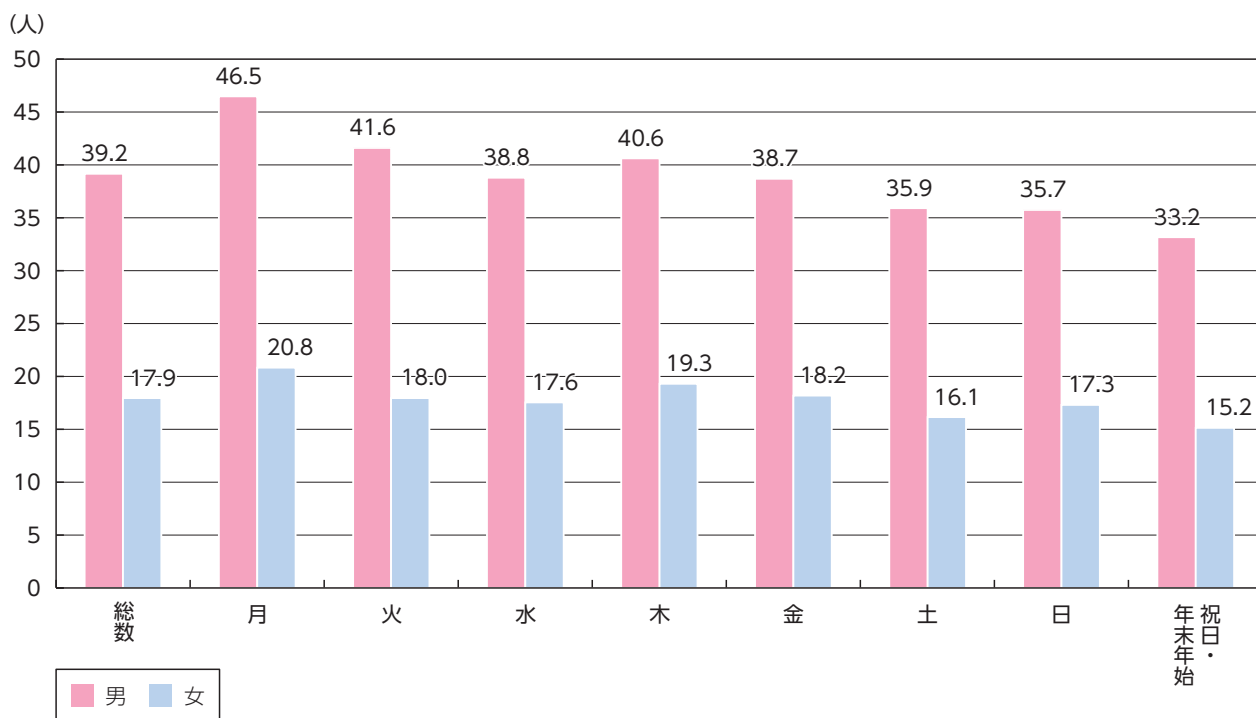
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(10) 曜日別の状況

平成30年における発見曜日別一日平均自殺者数について、自殺統計によれば（第1-29図）、男性、女性ともに「月曜日」（男性46.5人、女性20.8人）が最も多く、男性は次いで

「火曜日」（41.6人）、女性は次いで「木曜日」（19.3人）が多くなっている。また、男女ともに「祝日・年末年始」（男性33.2人、女性15.2人）が最も少なくなっている。

第1-29図 平成30年における発見曜日別の一平均自殺者数



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成